

四半期報告書

(第84期第3四半期)

キヤノン電子株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

| | |
|--|----|
| 【表紙】 | 1 |
| 第一部 【企業情報】 | 2 |
| 第1 【企業の概況】 | 2 |
| 1 【主要な経営指標等の推移】 | 2 |
| 2 【事業の内容】 | 2 |
| 第2 【事業の状況】 | 3 |
| 1 【事業等のリスク】 | 3 |
| 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 | 3 |
| 3 【経営上の重要な契約等】 | 4 |
| 第3 【提出会社の状況】 | 5 |
| 1 【株式等の状況】 | 5 |
| 2 【役員の状況】 | 6 |
| 第4 【経理の状況】 | 7 |
| 1 【四半期連結財務諸表】 | 8 |
| 2 【その他】 | 16 |
| 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 | 17 |

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年11月10日

【四半期会計期間】 第84期第3四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

【会社名】 キヤノン電子株式会社

【英訳名】 CANON ELECTRONICS INC.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長 酒 卷 久

【本店の所在の場所】 埼玉県秩父市下影森1248番地

【電話番号】 0494-23-3111

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 大 北 浩 之

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝公園三丁目5番10号

【電話番号】 03-6910-4111

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 大 北 浩 之

【縦覧に供する場所】 キヤノン電子株式会社東京本社
(東京都港区芝公園三丁目5番10号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第83期 第3四半期 連結累計期間 | 第84期 第3四半期 連結累計期間 | 第83期 |
|----------------------------------|-----------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| 会計期間 | 自 2021年1月1日 至 2021年9月30日 | 自 2022年1月1日 至 2022年9月30日 | 自 2021年1月1日 至 2021年12月31日 |
| 売上高 (百万円) | 60,118 | 69,207 | 82,614 |
| 経常利益 (百万円) | 4,256 | 5,066 | 7,079 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円) | 3,286 | 3,978 | 5,392 |
| 四半期包括利益又は包括利益 (百万円) | 3,128 | 5,163 | 5,892 |
| 純資産額 (百万円) | 100,134 | 106,231 | 102,898 |
| 総資産額 (百万円) | 122,893 | 129,123 | 126,268 |
| 1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円) | 80.44 | 97.35 | 131.98 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円) | — | — | — |
| 自己資本比率 (%) | 79.1 | 80.8 | 79.4 |

| 回次 | 第83期 第3四半期 連結会計期間 | 第84期 第3四半期 連結会計期間 |
|-------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | 自 2021年7月1日 至 2021年9月30日 | 自 2022年7月1日 至 2022年9月30日 |
| 1株当たり四半期純利益金額 (円) | 18.30 | 27.49 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済・日本経済は、ロシアによるウクライナ侵攻、原材料や原油価格の上昇、半導体をはじめとする電子部品や材料等のひっ迫、輸送価格の上昇や配船の遅延、電気料金の値上げなど厳しい状況が続いています。また、急激な円安ドル高の進行など、先行きは不透明で予断を許さない状況となっています。

このような状況の中、当社グループはカメラ用部品など需要が回復した製品の増産対応を進めたほか、ドキュメントスキャナーは商談が活発化してきた政府・金融向けを中心に積極的な拡販活動を展開し、売上は堅調に推移しました。その結果、当第3四半期連結累計期間の連結売上高は692億7百万円（前年同期比15.1%増）、連結経常利益は50億66百万円（前年同期比19.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は39億78百万円（前年同期比21.1%増）となりました。

なお、宇宙関連分野におきましては、2020年10月に打ち上げた当社製の超小型人工衛星「CE-SAT-IIB（シーイー・サット・ツービー）」と、打ち上げから5年が経過した「CE-SAT-I（シーイー・サット・ワン）」の実証実験を順調に進めており、地上の高精細画像を日々撮影しております。また、衛星本体や撮影画像、内製コンポーネントの受注も進めております。

スペースワン株式会社では、和歌山県串本町で日本初の民間企業が所有するロケット打上げ射場「スペースポート紀伊」を建設し、小型ロケット打上サービスの開始を目指し、準備を進めております。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

(コンポーネント)

コンポーネントセグメントにおきましては、デジタルカメラ関係は、当第3四半期連結累計期間も前連結会計年度に引き続きミラーレスカメラの売上が好調に推移しており、これにより当社が製造しているシャッターユニット・絞リユニット等のカメラ部品の生産数が大幅に回復し、前年同期と比べ売上が増加しました。レーザープリンター・複合機向けのレーザーユニットは、テレワーク等のワークスタイルの変化によりパーソナル向けを中心に受注が増加したほか、オフィス向け複合機の需要も回復しつつあり、前年同期と比べ売上が増加しました。なお、ベトナム子会社において生産を行っているプリンター部品は、プリンター本体増産により部品の生産数も増え、売上が増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は396億59百万円（前年同期比22.6%増）となりましたが、原材料価格高騰等の影響により、営業利益は38億19百万円（前年同期比6.3%減）となりました。

(電子情報機器)

電子情報機器セグメントにおきましては、ドキュメントスキャナーは、米州・中国・東南アジア地域・韓国向け売上が前年同期を上回り、その他の地域と合わせた全体の売上も前年同期と比べて増加しました。ハンディターミナル関係では、業務用情報端末の新製品「GT-50シリーズ」の販売が好調に推移し、ハンディターミナル本体の売上が前年同期を上回りましたが、モバイルプリンターの販売が前年同期を下回り、前年同期と比べ全体の売上は減少しました。レーザープリンター関係では、レーザープリンター本体やオプション等の生産を進め、前年同期と比べ売上は増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は220億2百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益は29億10百万円（前年同期比12.8%増）となりました。

なお、当セグメントにおいて、日本国内と欧州向けに、プリントされた写真をデジタル化する用途に対応したフォトスキャナー「RS40」を発売しました。また、可動式のスポットライトを搭載し、アルミ削り出しボディを使用した小型Bluetoothスピーカー「albos Light & Speaker」の受注・生産を開始し、当期中の販売開始に向け準備を進めております。

(その他)

その他のセグメントにおきましては、情報関連事業は、各企業のシステムへの投資が縮小や延期となっておりますが、情報セキュリティ対策ソフト「SML」においてテレワークや働き方の可視化に向けた分析パッケージの開発、提案を進めたほか、学校向け教務管理システム「SCHOOL AID（スクールエイド）」、顧客情報管理システム（CRM）等の受注活動を積極的に展開し、前年同期と比べ売上は増加しました。環境機器事業では、歯科用ミリングマシン「MD-500」ならびに前連結会計年度に発売した新製品「MD-500S」の販売台数を伸ばしました。医療関連機器では、血圧計や滅菌カートリッジの販売は増加したものの、一部製品の減産の影響を受け、前年同期と比べ売上が減少しました。また、スペースワン株式会社では、小型ロケット打上げサービス開始に向けて準備を進めているため、前年同期と比べ費用が増加しました。

これらの結果、当セグメントの売上高は75億44百万円（前年同期比3.3%減）、19億35百万円の営業損失（前年同期は13億88百万円の営業損失）となりました。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は1,291億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ28億54百万円増加しました。流動資産は823億41百万円となり、6億41百万円増加しました。固定資産は467億82百万円となり、22億13百万円増加しました。うち有形固定資産は408億38百万円となり、17億77百万円増加しました。

当第3四半期連結会計期間末の負債は228億91百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億78百万円減少しました。流動負債は184億36百万円となり、3億48百万円減少しました。固定負債は44億55百万円となり、1億30百万円減少しました。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は1,062億31百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億33百万円増加しました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は3,777百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 60,000,000 |
| 計 | 60,000,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年9月30日) | 提出日現在 発行数(株) (2022年11月10日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|--|----------------------------------|------------------------------------|---------------|
| 普通株式 | 42,206,540 | 42,206,540 | 東京証券取引所 (プライム市場) | 単元株式数 100株 |
| 計 | 42,206,540 | 42,206,540 | — | — |

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金 増減額 (百万円) | 資本準備金 残高 (百万円) |
|------------|-----------------------|----------------------|-----------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 2022年9月30日 | — | 42,206,540 | — | 4,969 | — | 9,595 |

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2022年6月30日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-------------------------------|----------|---------------------------|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式(自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式(その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式(自己株式等) | (自己保有株式) 普通株式 1,334,500 | — | 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 40,742,300 | 407,423 | 同上 |
| 単元未満株式 | 普通株式 129,740 | — | 同上 |
| 発行済株式総数 | 42,206,540 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 407,423 | — |

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が1,600株(議決権16個)含まれております。

2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式24株が含まれております。

② 【自己株式等】

2022年6月30日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|------------------------|---------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) キャノン電子株式会社 | 埼玉県秩父市下影森1248 | 1,334,500 | — | 1,334,500 | 3.1 |
| 計 | — | 1,334,500 | — | 1,334,500 | 3.1 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年1月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|----------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 23,626 | 20,062 |
| 受取手形及び売掛金 | 23,722 | - |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | - | 24,789 |
| リース投資資産 | 333 | 209 |
| 商品及び製品 | 3,579 | 3,878 |
| 仕掛品 | 7,559 | 11,030 |
| 原材料及び貯蔵品 | 289 | 276 |
| 短期貸付金 | 20,000 | 20,000 |
| その他 | 2,588 | 2,095 |
| 流動資産合計 | 81,699 | 82,341 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 12,798 | 12,788 |
| 機械装置及び運搬具（純額） | 2,620 | 2,327 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 3,936 | 4,009 |
| 土地 | 18,489 | 18,600 |
| リース資産（純額） | 5 | 637 |
| 建設仮勘定 | 1,210 | 2,475 |
| 有形固定資産合計 | 39,061 | 40,838 |
| 無形固定資産 | 1,556 | 1,653 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 2,036 | 2,043 |
| 繰延税金資産 | 1,291 | 1,165 |
| 退職給付に係る資産 | - | 408 |
| その他 | 622 | 672 |
| 貸倒引当金 | △0 | △0 |
| 投資その他の資産合計 | 3,950 | 4,289 |
| 固定資産合計 | 44,569 | 46,782 |
| 資産合計 | 126,268 | 129,123 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 11,424 | 12,734 |
| 電子記録債務 | 771 | 793 |
| リース債務 | 192 | 171 |
| 未払費用 | 1,261 | 976 |
| 未払法人税等 | 2,008 | 775 |
| 賞与引当金 | 427 | 1,468 |
| 役員賞与引当金 | 63 | 51 |
| 受注損失引当金 | 14 | 10 |
| その他 | 2,620 | 1,455 |
| 流動負債合計 | 18,784 | 18,436 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 3,200 | 3,200 |
| リース債務 | 139 | 712 |
| 繰延税金負債 | 25 | 56 |
| 役員退職慰労引当金 | 200 | 200 |
| 退職給付に係る負債 | 1,019 | 285 |
| その他 | 0 | 0 |
| 固定負債合計 | 4,585 | 4,455 |
| 負債合計 | 23,370 | 22,891 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 4,969 | 4,969 |
| 資本剰余金 | 9,435 | 9,556 |
| 利益剰余金 | 88,497 | 90,225 |
| 自己株式 | △2,503 | △2,482 |
| 株主資本合計 | 100,399 | 102,268 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 319 | 323 |
| 為替換算調整勘定 | 730 | 2,765 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △1,231 | △1,090 |
| その他の包括利益累計額合計 | △181 | 1,998 |
| 非支配株主持分 | 2,680 | 1,964 |
| 純資産合計 | 102,898 | 106,231 |
| 負債純資産合計 | 126,268 | 129,123 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自2021年1月1日 至2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | 60,118 | 69,207 |
| 売上原価 | 47,244 | 56,341 |
| 売上総利益 | 12,873 | 12,866 |
| 販売費及び一般管理費 | 9,127 | 9,445 |
| 営業利益 | 3,745 | 3,420 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息及び配当金 | 60 | 78 |
| 助成金収入 | 134 | 27 |
| 為替差益 | 322 | 1,542 |
| その他 | 14 | 29 |
| 営業外収益合計 | 532 | 1,677 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 1 | 25 |
| 株式交付費 | 16 | 1 |
| その他 | 3 | 4 |
| 営業外費用合計 | 21 | 31 |
| 経常利益 | 4,256 | 5,066 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 4 | 0 |
| 特別利益合計 | 4 | 0 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 2 | 7 |
| 特別損失合計 | 2 | 7 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 4,257 | 5,059 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,883 | 1,994 |
| 法人税等調整額 | △176 | 81 |
| 法人税等合計 | 1,706 | 2,076 |
| 四半期純利益 | 2,551 | 2,982 |
| 非支配株主に帰属する四半期純損失(△) | △735 | △995 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 3,286 | 3,978 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 2,551 | 2,982 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △111 | 3 |
| 為替換算調整勘定 | 546 | 2,035 |
| 退職給付に係る調整額 | 142 | 141 |
| その他の包括利益合計 | 577 | 2,180 |
| 四半期包括利益 | 3,128 | 5,163 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 3,863 | 6,159 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | △735 | △995 |

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-4項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

| | 前連結会計年度 (2021年12月31日) | | 当第3四半期連結会計期間 (2022年9月30日) |
|---------------|--------------------------|---------------|------------------------------|
| 従業員の借入金(住宅資金) | 6百万円 | 従業員の借入金(住宅資金) | 3百万円 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) |
|-------|---|---|
| 減価償却費 | 2,200百万円 | 2,595百万円 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|-------------|------------|-------|
| 2021年3月26日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,021 | 25 | 2020年12月31日 | 2021年3月29日 | 利益剰余金 |
| 2021年7月21日 取締役会 | 普通株式 | 1,021 | 25 | 2021年6月30日 | 2021年8月27日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|----------------------|-------|-----------------|-----------------|-------------|------------|-------|
| 2022年3月29日 定時株主総会 | 普通株式 | 1,021 | 25 | 2021年12月31日 | 2022年3月30日 | 利益剰余金 |
| 2022年7月25日 取締役会 | 普通株式 | 1,226 | 30 | 2022年6月30日 | 2022年8月26日 | 利益剰余金 |

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年1月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3 |
|---------------------------|---------|--------|--------|--------------|--------|--------------|-----------------------------|
| | コンポーネント | 電子情報機器 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 32,358 | 19,958 | 52,316 | 7,801 | 60,118 | — | 60,118 |
| セグメント間の 内部売上高 又は振替高 | 539 | 428 | 967 | 229 | 1,196 | △1,196 | — |
| 計 | 32,897 | 20,386 | 53,284 | 8,030 | 61,314 | △1,196 | 60,118 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 4,077 | 2,581 | 6,658 | △1,388 | 5,270 | △1,524 | 3,745 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売、ITソリューション等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3 |
|---------------------------|---------|--------|--------|--------------|--------|--------------|-----------------------------|
| | コンポーネント | 電子情報機器 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | |
| 外部顧客への 売上高 | 39,659 | 22,002 | 61,662 | 7,544 | 69,207 | — | 69,207 |
| セグメント間の 内部売上高 又は振替高 | 507 | 455 | 962 | 242 | 1,205 | △1,205 | — |
| 計 | 40,166 | 22,458 | 62,624 | 7,787 | 70,412 | △1,205 | 69,207 |
| セグメント利益 又は損失 (△) | 3,819 | 2,910 | 6,730 | △1,935 | 4,795 | △1,374 | 3,420 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売、ITソリューション等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | | | その他 (注) 1 | 合計 |
|-------------------|---------|--------|--------|--------------|--------|
| | コンポーネント | 電子情報機器 | 計 | | |
| 日本 | 32,142 | 11,944 | 44,086 | 7,519 | 51,606 |
| 北米 | — | 5,050 | 5,050 | — | 5,050 |
| 欧州 | — | 2,783 | 2,783 | — | 2,783 |
| アジア他 | 7,516 | 2,224 | 9,741 | — | 9,741 |
| 顧客との契約から生じる 収益 | 39,659 | 22,002 | 61,662 | 7,519 | 69,182 |
| その他の収益(注) 2 | — | — | — | 24 | 24 |
| 外部顧客への売上高 | 39,659 | 22,002 | 61,662 | 7,544 | 69,207 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主にソフトウェアの開発・販売、ITソリューション等を含んでおります。

2. その他の収益は、リース取引に関する会計基準に基づく賃貸収入であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| 項目 | 前第3四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年9月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日) |
|------------------------------------|---|---|
| 1株当たり四半期純利益金額 | 80円44銭 | 97円35銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円) | 3,286 | 3,978 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円) | 3,286 | 3,978 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 40,856,592 | 40,867,515 |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第84期(2022年1月1日から2022年12月31日まで)中間配当について、2022年7月25日開催の取締役会において、2022年6月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 1,226百万円 |
| ② 1株当たりの金額 | 30円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 2022年8月26日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月9日

キャノン電子株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ 東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 居 健 一

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 向 井 基 信

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキャノン電子株式会社の2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年1月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、キャノン電子株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

| | |
|-----------------------|--|
| 【提出書類】 | 確認書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条の4の8第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2022年11月10日 |
| 【会社名】 | キヤノン電子株式会社 |
| 【英訳名】 | CANON ELECTRONICS INC. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役会長 酒 巻 久 |
| 【最高財務責任者の役職氏名】 | 該当事項はありません。 |
| 【本店の所在の場所】 | 埼玉県秩父市下影森1248番地 |
| 【縦覧に供する場所】 | キヤノン電子株式会社東京本社 (東京都港区芝公園三丁目5番10号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役会長である酒巻 久は、当社の第84期第3四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。